

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2771400484		
法人名	社会福祉法人 大阪府社会福祉事業団		
事業所名	白島荘グループホーム「華の家」		
所在地	大阪府箕面市白島3丁目5番50号		
自己評価作成日	平成30年12月07日	評価結果市町村受理日	令和元年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2771400484-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成31年1月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成14年3月、在宅でのケアを継続できれば認知症状の進行を遅らせることが出来るのではないかと考えから開設し、市内では第1号のグループホームです。平成19年3月より共用型のデイサービスも開始しました。平成25年から建て替えの為に引越しを経て、平成26年8月に現在の特養併設の形となりました。特に地域の方との交流を深め、老人会を始め様々な行事にスタッフ共々参加しています。地域のボランティアの方が毎月お茶をたてに来て下さったり、行事に参加して下さる等、地域の方にも運営をご協力頂いています。健康面では併設診療所だけでなく、自宅で生活していたかかりつけ医院の往診も継続して利用できます。看護職員の配置もあり、医療面では連携がとれています。夜勤帯や緊急時には併設する特別養護老人ホームからの応援体制も整っています。常に家庭的な雰囲気を大切に、明るく笑顔で、ご自身の力を発揮しながら生活が送れるよう支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は利用者や家族、職員がコミュニケーションを取りながら地域の一員として家庭的な環境の中で快適な生活できるように関わり支援を行っています。また、昨年より家庭的な雰囲気づくりの一環として食事作りに取り組み利用者が出来る事に携わる等日々の生活の中で得意な事に能力を発揮する様子もブログに上げる事で遠くに住む家族にも見て貰える様に頻りに更新しています。また、地域で行われる様々な行事や祭りへの参加、子ども達との相互交流や多岐にわたるボランティアの来訪も多くあります。地域交流行事としてのキッズサポーター養成講座の実施等に係ることで認知症への理解が得られ交流を深めています。職員の離職率も低く連携を図りながら利用者や家族、地域の方々と笑顔で接し地域に根差した事業所となるよう日々取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の意見を集約し理念に通じる標語を作成し、実践に繋げている。事業所内の掲示は玄関と事務所横にて行っている。	法人理念は会議の際には唱和を行っています。何時でも理念を確認し基本に立ち戻れるようにフロアに掲示し、日々利用者に係る中で認知症の基本的な支援を基に毎月の目標を設定し実践に繋げ振り返る機会としています。また、入職時には理念に込められている思いや大切さを説明しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会の年中行事へ積極的に参加している。又、月1回地域のボランティアによるお茶会他、写真セラピー、アートフラワー、カラオケ等、各種プログラムでの交流を深めている。併設特養が実施している週3回の地域ラジオ体操もほぼ全員が出席し、地域の方の協力で、週2回玄関前での出張朝市にお買い物にでかけ、季節の野菜や果物などの食材を購入し地域の方との交流の機会を得ている。	自治会に加入し地域で行われる祭りやサロンへの招待もあり参加しています。地域の小学校で行われる祭りの準備や模擬店の出店も行い利用者と一緒に参加し、子供たちとも交流をしています。また、市主催の認知症の声かけ訓練の協力も行っています。大学の福祉課の実習を受け入れたり、多岐にわたるボランティアの来訪もあり積極的に地域との交流が深まっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成30年2月に地域交流行事の中で認知症キッズサポーター養成講座を実施し、地域住民の認知症への理解得る場としている。平成30年度には、箕面市が主催する「認知症高齢者への声かけ訓練」に認知症の方の役を演じるモデルとして、3度参加し職務上で得た知識を活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内で事業所の現状や取り組みなどを報告し様々な立場からの意見を頂き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度民生委員や市高齢介護課担当者、市の認知症家族の会の方や地域包括支援センター職員等の参加を得て開催され、利用者の状況や活動内容、事故報告や行事、ボランティア活動について報告を行い意見交換を行っています。災害や避難についての質疑応答や地域の情報を得てサービスに活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	3ヶ月に1回、市の高齢者グループホーム連絡会があり、市町村担当者に意見を貰うなどの協力関係が出来ている。運営推進会議に於いても市町村担当者がほぼ毎回出席している。	具体的な問題点や制度上の分からない事はメールや電話、直接訪問するなど、相談ができる関係が構築されています。3か月に1回行われるグループホーム連絡会には市の担当者の出席もあり、意見交換やアドバイスをもらう機会があります。研修案内もあり内容により職員が参加しています。	

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を通じて正しく理解すると共に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人で身体拘束についての勉強会が年に2回及び身体拘束防止委員会が毎月開催され、身体拘束に繋がらない取り組みを行っています。言葉遣いや尊厳についても配慮し、不適切な対応があれば個別に指導を行っています。玄関は施錠をしていますが、外に出たい様子が見られた場合は職員が付き添ったり見守りながら利用者の行動を止めることなく職員が連携して見守るよう支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止会議や年に複数回行なわれる虐待防止研修を通じて学ぶ機会を持ち、防止に努めている。法人全体で事業所毎に年1回のチェックと、職員自身も虐待防止のセルフチェックを年1回実施し、自らの行動を見直す機会を持っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居前より平成29年7月まで日常生活自立支援事業利用の利用されておられ、利用者の支援を通じて職員が学ぶ機会を得ている。必要があれば活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	それぞれ文章にて確認と十分な説明を行い、理解と納得ができるよう努め、了解の意として記名と捺印をもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を玄関に設置している。又面会時やサービス担当者会議等に意見や要望を聞くだけでなく、「華の家」サロンと題した、ご家族様と職員の交流会を隔月で開催し、出席された家族から意見を頂き、運営及び支援に反映させている。	家族の面会時には直接意見を聞いたり、些細な変化などがあれば電話で報告をしています。また、年に1回行われる満足度アンケート調査の意見を基に家族と職員とのコミュニケーションを図るための場所を企画し「華の家サロン」を開催し、家族と利用者、職員が交流し意見等が言いやすく理解を深める場所となっています。また利用者の意見や要望は日々支援する中で聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケアスタッフ会議にて意見や提案を聞く機会を設けたり、毎日夕方のミーティングで意見交換の時間を設けている。	毎月行われるスタッフ会議では、各委員からの報告やケアの統一についての意見や提案があります。申し送りの内容により用紙の色を変えたり、項目毎に分かりやすく記載する方法や、薬の誤薬や飲み忘れをチェックする方法の統一を行うなど職員間で共有できるようにしています。管理者は年に一度の面接の他、悩みを抱えている職員には随時面接を行い、意見や思いを聞いています。	

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1回以上の個人面談を実施し、就業環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が初任者研修講習を行っており、職員が受講している。働きながらの資格取得をサポートする為、受講費用の返金制度も設けている。また新人職員へのフォローアップ研修も、個別に計画し日常支援業務の中で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1回、市の高齢者グループホーム連絡会があり、毎回テーマを決めて活動報告や意見交換を行い、サービスの質の向上をさせていく取り組みを行っている。平成29年度には法人内グループホーム相互にて食事作りを中心に、視察の機会を持ち、より質の高いサービス提供に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接で本人の話しや要望をよく聞き、できるだけそれらに沿えるよう努めたり、安心して暮らせるような関係作りに努めている。ご家族さまとも、お部屋の設え等についてご相談しご自身が過ごしやすい生活環境となるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接やサービス担当者会議を通じて様々な要望や意見を聞き、それらに沿った支援ができるよう関係作りに努めている。また、面会の都度、介護スタッフも含めご利用者の様子をお伝えし不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接やサービス担当者会議で必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般(調理・食器洗い・洗濯物干し・洗濯物たたみ・掃除など)を通じて、職員と利用者は協力しながら行い、互いに様々な事を教わりあえる暮らしを共にするものとしての関係を築いている。		

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	衣類の入れ替え、布団のシーツ交換、排泄用品の補充など入居前の生活様式の継続の為ご家族に可能な範囲で担って頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと、かかりつけ医師の受診や買い物、美容院等への外出が行えている。またご家族以外のご友人や知人の面会や、外出しての食事会等もしていただいている。	家族以外にも友人の面会があり、その際はテーブルや椅子を準備して居室やフロアでゆっくり過ごせるよう支援しています。家族と馴染みの美容院に出かける他、自宅で過ごしたり、親戚の集まりへの参加、墓参りに出かける方もおり、その際には準備などの支援を行い、これまでの関係継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブル席に座る位置等は利用者同士が関わりあえるような配慮をしている。又、余暇活動で利用者同士が交流を深めるような支援を行っている。利用者の人間関係を常時観察し、安心して暮らせるよう配慮している。ソファを2ヶ所に配置し、2～3人だけの空間を作れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も必要に応じて本人や家族と連絡を取っている。併設特養へ入所された方には訪問も相互に行っている。長期入院が見込まれ、サービス終了となった方の面会や、ご家族様とのメール交換にて経過のフォローしご利用者が亡くなられるまで行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス担当者会議や面会時に家族から情報を得ながら、思いや希望など意向の把握に努めている。困難な場合も家族の協力を得て本人本位に検討している。	入居前の面談では施設や自宅、病院等に出向いて本人や家族の希望や心身の状況、生活歴や日課、習慣や好み等の情報を聞き取ったり、今まで関わっていた担当者より情報を得てアセスメントを行い利用者の思いの把握に繋げています。入居後は日々の会話の中から利用者の思いを汲み取れるように関わり、困難な場合でも職員間で共通認識を持てるよう取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接やサービス担当者会議、面会時に、本人や家族から情報を得て、把握に努めている。		

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人の記録やケアプランチェック表、モニタリング等の記録をしっかりと行うとともにスタッフ会議で現状の情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開催し、本人や家族の意向を反映するとともに、主治医に意見を求めたりケアスタッフ会議やモニタリングなどで職員から意見を出してもらい、チームとして介護計画を作成し、実践できるよう努めている。	本人や家族の思い、アセスメントを基に介護計画を作成し入居後1か月後に計画を見直しています。また、毎月モニタリングや評価を含めた総括を行っています。利用者の状況に変化がなければ、6か月毎に再アセスメントを行いサービス担当者会議を開催し計画の見直しを行っています。見直しに当たっては本人や家族、医師、看護師の意見を改めて聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や個人記録、申し送りノートを通じて情報の共有を図っている。又、月総括記録やモニタリングで介護計画の見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入浴回数を『希望に応じて増やすなど、ニーズに応えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への外出や地区老人会や地域行事への積極的な参加を通して住民との交流を図り「利用者も地域で暮らす一住民」という視点を大切に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向により、入居前からの主治医に継続受診又は往診を受けることができている。入居を機に併設診療所に主治医を変更することもできる。往診を受けられる方は毎月1～2回の往診がある。更に必要時や緊急時には各主治医に連絡し、受診又は往診を受ける事ができている。	入居時にかかりつけ医について説明し、ほとんどの方が月に2回協力医の往診を受けていますが、今までのかかりつけ医を継続して往診を依頼している方もいます。緊急時には看護師に連絡が取れ相談が出来る体制が構築されています。他の医療機関の受診は家族の協力を得ており、その際には口頭で情報提供を行っています。訪問歯科の往診もあり希望者が治療を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は主治医と密に連絡をとり、申し送りノートや医務ノートを活用し介護職員との情報交換に努め、利用者が適切な医療サービスを受けられるよう支援している。		

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はその病院の地域連携に関わる部署との連絡を密にとり、情報交換や連絡を頻繁に行っている。主治医のご家族様への説明の機会に同席し適切な対応が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関する指針を定め、入居時に家族に説明している。看取りは現在まで対象者がいなかった為、経験はなく今後の取り組みとなっている。重度化の先送りを目的に、適切なケアでご本人の力が発揮されるよう支援している。設備・体制上できないケアを入所や施設見学の際説明し、必要に応じて特養入所をご案内することも行っている。	入居時に看取りに関する指針について説明し事業所で出来る事と出来ないことを事例を基に説明しています。重度になった時にはかかりつけ医の判断の下カンファレンスを行い家族の希望を確認し看取りの準備を行います。緊急時には併設施設より応援体制があります。現状では看取り支援の経験はなく病院や法人として受け入れが出来る施設に移ることがあり、転居までの支援をしています。年に1回マニュアルを使用し看取りの研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は研修にて職員に徹底している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養と共同で避難訓練を年2回以上行い、職員全員が対応出来るように訓練している。うち年1回は消防署の立ち合いの元、訓練を行っている。法人との合同訓練も年1回行っている。	火災訓練は併設の特別養護老人ホームとの合同で年に2回昼夜を想定し行われています。内1回は消防署の立会いの下、消火器や通報機器の使い方の訓練、利用者も一緒に避難訓練を行いアドバイスをもらっています。行事と合わせて訓練を行いボランティアの方の参加が得られています。毎年法人として震度7を想定した総合防災訓練も実施しています。また、水や食料等の備蓄の準備があります。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇向上委員会での提案をスタッフミーティングの際毎回取り上げ、月々の目標を掲げ尊厳、プライバシーに配慮した対応を行う指針としている。	毎月接遇向上委員会を開催し取り組みや目標を設定し実施しています。日々の関わりの中で認知症ケアも含め利用者には尊敬の気持ちを持って敬語で馴れ馴れしい話し方にならないように指導しています。不適切な言動が見られた場合には個別に指導をしています。また、年に2回接遇自己チェックを分析しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、些細な希望でも遠慮なく表現できるよう、選択的なお誘いをし自己決定の機会を奪わないよう心掛けている。		

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人の生活リズムを把握し、そのリズムを崩さないように支援を行っている。起床時間は利用者の生活習慣に合わせてゆっくりと寝ていても良い環境を整えている。朝食は、個別にご用意できるため、起きたとき、食べたいときに食べられるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装の好みやヘアスタイル等、個人の希望の聞き取りに努め、それに沿うよう支援し、ヘアカラーやパーマもしていただいている。又、行事や外出時にはおしゃれや化粧等の希望があればしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の利用者の出来ることを見つけ、職員の見守り、声掛けの支援で下ごしらえや調理、盛り付け、配膳、下膳、食器洗い、後片付け等をしていただいている。	家庭的な雰囲気を作るためにも食事は自分たちで作りたいたいと言う職員の意見もあり、昼と夜は業者より冷凍のおかずが届きますが、味噌汁とご飯は事業所で作り出来る方は調理や盛り付け、後片付け等に携わっています。また、月に1回は業者の夕食を止めて利用者の希望を聞き食べたいものを作っています。季節に合わせた特別食や手作りおやつ、定期的な外食で食事を楽しむ機会を設けています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算された宅配の食材業者を活用している。食事・水分摂取量の把握については、個人記録に記入して1日の摂取量を把握している。食事形態は、個人の状態に応じ、調理や盛り付け段階で食べやすく手を加えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個別の状態に応じた口腔ケアを実施している。又、希望者には訪問歯科診療を受けられるような機会を設けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全ての入居者がトイレでの排泄を行っている。又、介護方法や適切な排泄用品の選定はケアスタッフ会議やミーティング等で意見交換や情報共有を図り統一できるよう努めている。入居と同時に紙パンツの使用をやめて頂き、布パンツに変えて頂いた方もおられる。	排泄チェック表を参考に、一人ひとりのリズムやサインを記録しケアの統一を図り自室のトイレに案内することで、失敗が少なくなるよう支援しています。中には入居時終日紙パンツを使用していた方が夜間のみ紙パンツを使用し徐々に変更することで終日布の下着で過ごすことができた事例もあります。日々職員間で様々な意見交換をし話し合いながら自立に向かうよう支援をしています。	

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個人の健康状態を把握した上で、ヨーグルトやオリゴ糖等、飲食物の使用を積極的に行っている。日中の運動や散歩等の機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎週曜日を決めて入浴してもらっているが、本人の意思やその時の状況に応じて柔軟に対応しており、変更も行っている。足浴の提供機会を加え、楽しんで頂いている。	入浴は週に2回利用者の希望を聞いたり体調に合わせて対応しています。衣類選びから利用者と一緒にいきマンツーマンで話しゆっくり入浴を楽しんでいます。入浴を拒む方には無理に勧めることなくタイミングと声かけを工夫し時間も考慮しています。本人専用のシャンプーや石鹸を使い好きな湯の温度で入浴できるように支援し、毎回湯を入れ替え衛生面にも配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の体力や体調を考慮し、必要な方には日中ベッドでの休息時間を約1時間ずつ設けている。居室は一日に2回室温・湿度の確認・記録を行い、快適に過ごせるよう支援している。また、寝具の状態、夜間のトイレ誘導のタイミングにも配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の処方箋をファイルに綴じ、スタッフ全員が閲覧できるようにしている。服薬の変化があった際は、状況を課題にあげて申し送るなど安全に服薬管理が行えるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事(洗濯・食器洗い・洗濯物干しやたたみ等)が好きな利用者にはスタッフと一緒に行って頂いたり、手先の事が好きな方にはレクリエーションや創作活動などに参加し、作品を廊下に展示するなど個々人の楽しみ、活かす場を持つ機会を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や地域の方の協力も得ながら、地域行事や買物・散歩などの支援を行っている。又天気の良い日は近くの公園等、戸外に出る機会を作っている。年に2度ほど全員がレストラン等に出かける機会を作っている。	天候と体調に合わせて少人数で事業所近辺や公園を散歩したり、近隣のペットショップやケーキ屋等に出かけています。また、初詣や季節の行事や地域の盆踊りや敬老会、クリスマス会等の行事にも参加する等利用者の身体状況に合わせて外出の機会を設けています。更に希望を聞き日本舞踊を見に行ったり、昭和の初期に使用していた道具を展示したギャラリーの見学に行き昔話に花が咲くなど外出が楽しいものになっています。	

白島荘グループホーム華の家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かりが主になっているが、個人の買物については、支払いはご自身の財布から行えるように努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方もおられ、持っていない方にもご希望時にはご家族からの電話を取り次ぐことの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの照明を暖色にしたり、壁の色はアイボリーやベージュの色合いで優しい配色を選んでいる。壁飾りなど季節感を感じられるような工夫をし、家庭的で居心地の良い環境作りに努めている。館内全体にご利用者が描かれた絵を飾っている。	共用空間の壁には毎月テーマを決めて利用者が作成する季節感のある千切り絵や塗り絵が飾られています。テーブルや椅子の他置スペースや廊下には休憩できるソファを置きくつろいだり休憩の場所として利用されています。毎日換気を行い利用者にも清掃に携わってもらい、利用者の体感を確認しながら室温の調整と朝夕の温度チェックを行っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事テーブルのほか、ソファの複数配置や畳コーナーなどを利用し居場所作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談し個人の使い馴染んだ家具や好みの物をお部屋に配置し、本人が安心して過ごせるような工夫をしている。	居室には家族の写真やぬいぐるみ、趣味の本や馴染みの机等を持参し一人ひとりにあった居心地の良い空間となるよう工夫しています。自宅での生活習慣を尊重し、ベッドか布団を選択してもらっています。また各居室には洗面所とトイレがあり、定期的な清掃やシーツ交換を行い清潔が保たれています。加湿器を配置し、温湿度チェックを行い過ごしやすい環境作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム内は全てバリアフリーになっている。ベランダから庭へもスロープ、手すりを設置して、園芸活動が行いやすいようにしている。各個室にトイレを設置しており、車椅子の方でも使用できるよう広さを確保している。又、ご自身のお部屋が分かりにくくなってきた方の為に、個別に名前が分かる工夫を行っている。		